

佐ト訪米阻止を會へで決元

12日12半教養先生で決起集会 13日9半前集会で教職組支援 3室内集会→扇町へ S院協

等友諸君、

我々は、11月13日佐ト訪米阻止に向けて、全国の労働者政治ストと連携し、ストでもって斗うことの大會で決定した。

S院協は、安保粉碎、佐ト訪米阻止という政治課題を何政ストで斗うのか。それは、今秋から70年にかけての政治の季節という政治情勢の中で、我々のムードヒしてもつ反対意図に基いているといえ、卷にありも、我々がこの半年間の市大斗争を経験する中で得た証拠に基いているのだ。

それでは、我々の得た証拠とは何か。

経験から言うならば、改革斗争の全面的勝利は、政治斗争を避けなく中からしか勝ち取れないという一般的証拠であり、さらに、全国学園年会のなかんずく市大斗争の現局面の困難性が日昇の大學生編、70年安保維持という極めて現代的且主要課題と密接な関係を有しているという証拠である。国家権力、市権力と全面的に干渉した大学当局による9月30日、10月4日の入管、そして常駐体制の中で我々に対してなされた弾圧は言うまでもなく大學法の実体化である。

具体的にいえば、国家権力、市権力のテコ入れによる大学当局の全面的居直り、「市大を守れ」のスローガン、一元的管理命令枠内に全教員を組織し、抵抗する教員には禁制命令という形で強制的に政府・当局協力体制に組み込むという教員指揮、「市大の社会的責任」「非暴力・秩序維持」という觀念から、実力斗争の禁止、自治活動の規制という学生政策にみられるように、管理枠内、イデオロギーの両面から、大学の帝日主義的再編を強硬におこすすめているのである。

我々は、大學をめぐるかかる証拠に基き、今までの大學の改革という復興を日帝打仕という観点に一步進め安保粉碎、大學の帝日主義的再編粉碎を、今秋期、そして、70年を向っていかねばならないと考える。

17日、佐トはヤマン的沖縄返還交渉にアメハカに起つ。

現在、我々のなまこねばならないことは、日帝の旗手、佐ト体制を打仕し、日帝のアロタラムを粉碎していくこと、その第一歩として、17日、佐ト訪米阻止を大衆的に斗うことである。

等友諸君、

現在、我々の目の前にある、そして現状を規定している安保・沖縄という政治課題と共に、全国の労働者と共に、13日をストライキで斗おうではないか。

スケジュール (詳しくは工学部B-525へ)

12日12半教養先生 決起集会 (11-13実行C.)

13日9~10半教職組スト

90	S字部前	連帶集会 (11-13実行C.)
10	S公試室	討論集会 (S院協、討論経済予)
30	教養先生	決起集会 (11-13実行C.)
60	扇町公国	一市五中郵まで

15日佐ト訪米阻止 全市大政治集会